



浜風

HAMAKAZE

発行：青森県漁業士会

青森県水産振興課内

017-734-9592

編集：「浜風」編集委員会



平成30年度青森県漁業士会総会開催

平成30年5月23日（水）、青森市で青森県漁業士会通常総会が開催されました。今年度は役員改選が行われ、下記のとおり新役員が選任されました。

- 会長 田中 張寛（蓬田村漁協）
- 副会長 大川 昭一（新深浦町漁協）
- 理事 坂崎 祐也（風合瀬漁協）
- 八戸 翼（平内町漁協）
- 白濱 信生（岩屋漁協）
- 坂下 利助（階上漁協）
- 監事 坂岡 正彦（三沢市漁協）
- 山縣 勝彦（野辺地町漁協）
- 秋田 正明（横浜町漁協）
- 奈良 恒人（鱈ヶ沢漁協）
- 上小倉 良次（川内町漁協）
- 深川 修一（八戸市南浜漁協）
- 中村 由美子（青森市漁協）
- 長内 詩子（鱈ヶ沢漁協）



新役員の紹介

- 理事 白濱 信生（岩屋漁協）
- 理事 中村 由美子（青森市漁協）



新名誉会員の紹介

- 江戸 英子（平内町漁協）

新役員を代表して

○東青漁業士会 青森市漁協 中村由美子



今回、名誉漁業士になられた平内町漁協の江戸さんに替わり、新役員となりました青森市漁業協同組合の中村です。

県漁業士会がますます発展するように、田中会長はじめ、新役員のみなさんと頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

今年度は、東北・北海道ブロックと日本海ブロックの漁業士研修会の開催県が本県であったことから、県漁業士会が幹事となり、両ブロック合同研修会を、平成30年5月23～24日に青森市において開催しました。

研修会には水産庁研究指導課の南課長補佐と野竹氏をお招きし、北は北海道から南は山口県まで、13道府県の漁業士と行政・漁協関係者、約130名が集う大規模な研修会となりました。

1日目は大島商船高等専門学校准教授の行平様から大分県臼杵市が取り組んだ、魚でまちづくりの事例について講演をいただきました。その後、各道府県の活動報告と意見交換が行われ、東北・北海道と日本海の会員が相互に漁業士活動を知る大変貴重な機会となりました。

また、研修会終了後には、13道府県から49名の漁業士が一同に会する交流会を開催し、研修に引き続いて、活発な意見交換が行われました。交流会では、県漁業士会から陸奥湾のホタテと試験養殖中の今別サーモンを振る舞い、大盛況のうちに終了しました。



講演



交流会



陸奥湾ほたて&今別サーモン

2日目は平成29年10月に青森市港町に新工場を設立した㈱ヤマシの水産加工場を訪問し、冷凍ホタテ（陸奥湾産）の製造工程を見学しました。



ヤマシ水産加工場

また、平内町土屋の「ほたて広場」では、ホタテガイを中心に、青森県内で捕れる魚介類や加工品を販売・宣伝する施設を見学したほか、「ほたて広場」に隣接し、平成30年5月8日に新規オープンした「ひらないまるごとグルメ館」で、平内のご当地グルメ「平内ホタテ活御膳」を参加者の皆さんと共に味わいました。



平内ホタテ活御膳

次回開催県は東北・北海道ブロックが北海道、日本海ブロックが石川県です。多数の参加をお願いします。



集合写真

会員の皆様の御協力により、盛会のうちに終了することができました。大変ありがとうございました。

新会員の紹介

平成30年度は、青年漁業士から指導漁業士に移行する2名が認定されました。

認定式は、平成31年1月23日に第60回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会の場で行われ、副知事から認定証が授与されました。



○東青漁業士会

指導漁業士



竜飛今別漁協
山本 忠彦
(一本釣り、採介藻)

この度、指導漁業士の認定を受けました、竜飛今別漁業協同組合の山本です。

私は一本釣り、採介藻などで漁業を営んでいます。今後も漁業士会での活動に積極的に参加し、知識を学び交流を深め、地域漁業の振興に貢献していきたいと思っております。

今後ともよろしく願います。



蓬田村漁協
福田 秀樹
(ホタテガイ養殖)

この度、指導漁業士の認定を受けました、蓬田村漁業協同組合の福田です。

私はホタテ養殖を主体に、ナマコの桁曳漁とカニ籠漁を営んでいます。これまで漁業士会で得た知識を地元の漁業者にも知ってもらおうと学習会を行ってきました。

今後も漁業士活動で習得した知識や技術を若い世代に伝えながら、担い手の育成に努力して参ります。

平成30年8月29日～30日、東日本女性漁業士交流会が宮城県女川町まちなか交流館で開催され、青森県からは4名の女性漁業士が参加しました。

1日目の講演では、水産庁長官が任命する「お魚かたりべ」のひとりである宮城県農林水産部水産業振興課酒井敬一さんから、宮城県の魚料理についてお話がありました。酒井さんは、魚離れを食い止めるため、魚食文化の普及・伝承に努めているそうです。一番印象に残ったことは、子供を対象に魚料理が嫌いな理由を調査した結果で、最も多かったのは「骨がある」、次に「食べるのが面倒」というもので、私が鱈ヶ沢の海の駅「わんど」で販売している加工品の作成の際に役立てたいと思いました。

講演後に行われた料理講習会では、宮城の海の幸を使って世界の魚料理を作り、参加者たちと楽しい時間を過ごすことができました。

2日目は、女川町地方卸売市場等の視察を行い、蒲鉾本舗高政の工場では蒲鉾作りを体験しました。衛生的な工場は私たち小規模な加工を行う者も見習うべきと感じました。

来年は、岩手県での開催予定です。今回は、活動の方向性が同じ仲間と出会えて有意義な交流会となりました。また会える日を楽しみにしています。



講演の様子



料理講習会



集合写真

○東青漁業士会

青森市漁協

須藤義弘

平成30年9月4日に青森市内において、「先端技術を活用した世界最高水準の下痢性貝毒監視体制の確立事業」現地講習会を開催しました。

この事業は、国の中央水産研究所が行っているホタテの下痢性貝毒の検査海域の細分化を目的とした検査キットの開発を目的に行っている研究です。東青漁業士会では、平成29年から生産者の立場として参加しています。

講習会では、同じく事業に参加している平内の水産総合研究所の高坂漁場環境部長、扇田研究員の指導により、現在までに試作されている検査キットを使って、会員による実演・実習を行いました。

普段まったく手にすることのないピペットや遠心分離機を前に戸惑うばかりでしたが、貝毒検査がどのようにやられているかを知ることができて、とても勉強になりました。



高坂部長による検査方法の説明



ピペットを使った実演講習

○三八漁業士会

八戸鮫浦漁協

関野 稔

「第1回研修会と岩手県漁業士会久慈支部との交流会を開催」

平成31年2月5日（火）八戸市湊高台「兆蘭」において研修会を開催しました。

八戸学院大学地域経済学部地域経営学科特任教授鶴見浩一郎氏に「北浜海域水産資源の恒久的な利用と新たな取組みについての提言」と題し講演をいただきました。

北浜海域（三沢～八戸）の重要な浅海資源であるほっき貝の生産力レベルアップ対策として、魚価向上のために産地優位性の明確化や他の事例を参考にした知名度向上、八戸の流通機能を活かした付加価値向上など、独自の優位性を明確化するような取組の必要性を考えさせられる内容でした。



また、鶴見先生が研究テーマとして取り組んでいる、ミネフジツボについても触れ、船底防染塗料、漁網防汚剤の研究をされフジツボを付着させないための研究をしていた先生が、食材としてのフジツボの研究に至った経緯に、会場には笑いがこぼれていました。摩訶不思議なフジツボの生態や、これまで苦労された養殖試験の様子など、写真や動画を交えて私たち漁業者にもわかりやすい内容となっていました。



2月20日（火）には、今年で12回目となる岩手県漁業士会久慈支部との交流会を三沢市の「きざん三沢」で開催しました。1日目の交流会では、深川会長から県事業「あおもり漁業の魅力体験事業」に参画した新規就業者確保の取組、インターンシップで参加した若者がそのまま就業したことや、新たに就業を希望する若者が働き始めたことなど報告がありました。



久慈支部からは、採介藻漁業における水揚げ向上に向けた取組として、透明付着版を用いたアワビの種苗放流とワカメフリー種苗を使ったアワビ・ウニの餌料対策についての紹介がありました。

資源保護を目的とした漁具の改良など情報交換がなされるなか、漁業を希望する後継者がいるにも関わらず、イカの不漁、資源の減少、魚価の低迷により今後の漁業経営の不安から、息子に就業させたくないとの話題もでしたが、浜のリーダーとしてどうあるべきか意見交換を行いました。

翌日は奥入瀬川鮭鱒増殖漁業協同組合のサケふ化場において、寒い外での飼育の様子などを見学しました。戸来組合長からはふ化放流事業説明を受け、ふ化場の重要性を再認識する視察研修となりました。



漁業士会日本海支部会は、平成30年6月19日、五所川原市十三地区にて、海浜清掃を行いました。10名の会員が参加し、快晴のもと汗を流しながらゴミを拾い、瞬く間にトラックの荷台は集めたゴミ袋でいっぱいになりました。ゴミの中には海外から流れ着いたものもあり、近年、日本海で多数漂着するようになった木造船の問題を思い出しました。今のところ、木造船による深刻な漁具被害は出ていませんが、今後、発生する危険があると思うと不安です。

今回、ゴミの処理には十三漁業協同組合と五所川原市の御協力をいただき滞りなく終わることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



むつ支部会は総勢69名が在籍しています。子供たちを対象とした水産教室、年2回開催する研修会、各漁協での海浜清掃、生産者による豊漁・豊作祈願祭などの活動を通じて、下北地域の漁業振興・魚食普及、またそれに向けた知識の習得に努めています。

平成31年2月12日に行った研修会では、一般社団法人フィッシャーマンジャパン事務局長長谷川琢也さんをお招きし、フィッシャーマンジャパンの理念や活動内容について講演していただきました。

フィッシャーマンジャパンは宮城県石巻市を拠点としている団体で、水産業を“新3K”（=カッコいい・稼げる・革新的）産業とするため、3.11の震災を機に若手漁師が中心となって発足しました。

講演の中では、新規漁業就業者確保のための取組“TORITON PROJECT”の他、漁師をプロモーションするための動画の作成や漁師と会話ができる居酒屋の経営、企業や個人向けの水産物販売など、漁業振興・魚食普及を図るための様々な取組が紹介されました。どの取組も非常に興味深く、有意義な研修会となりました。

当支部会においては、今回の研修で学んだことも生かしながら、少しでも浜の賑わい再生の一助を担っていきたいと思っていますので、関係機関の皆様には引き続き御支援・御協力をお願いいたします。



研修会の様子

第60回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会

平成31年1月23日、青森市の県民福祉プラザにおいて「第60回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」が開催されました。4人の発表者がそれぞれのテーマに沿って、その活動の実績を発表しました。

漁業技術部門の優秀賞には「なまこと魚でがっちり！ ー地先資源を増やして活用ー」を発表した、野辺地町漁業協同組合 刺網・底曳・底見漁業者連絡協議会 熊谷 浩さんが選ばれました。

熊谷さんは、平成32年3月に開催予定の「第25回全国青年・女性漁業者交流大会」で、本県代表として発表することになりました。

また、生活改善部門では、「浜のかっちゃんたちと町おこし ー笑顔あふれる地域を目指してー」を発表した、小泊漁協婦人部 久保田 和子さんが優秀賞を受賞し、平成31年2月28日～3月1日に開催された全国大会で発表しました。



※「第61回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」の開催日は、平成32年1月22日(水)の予定です。

第24回全国青年・女性漁業者交流大会

平成31年2月28日～3月1日、東京都千代田区のグランドアーク半蔵門で開催された「第24回全国青年・女性漁業者交流大会」において、「第59回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」で「浜に活気を！空前規模の漁師連携 ー10漁協が一つになる日ー」で優秀賞を受賞した、つがる日本海お魚大漁まつり実行委員会 長谷川直人さんが発表し、農林中央金庫理事長賞を受賞しました。



水産振興課から

農林水産部水産局水産振興課
企画・普及グループ

- ・「あおもり漁業の魅力体験事業」
- ・「あおもりの肴」消費拡大レベルアップ事業
(あおもりの肴事業)

県では、「あおもり漁業の魅力体験事業」によって、漁業就業に興味や意欲のある方に、漁業の魅力を積極的に発信し、さらに体感してもらうことで本県での就業を促す取組を行っています。

平成30年度に引き続き、平成31年度も同様に、漁業体験教室の開催やインターンシップの受入れ等に対する支援及び（一社）全国漁業就業者確保育成センターHP（漁師.jp）への求人情報の掲載支援等を実施しますので、新規就業者の受入れ希望がありましたら、水産振興課または各地区の水産業普及指導員へお気軽にご相談ください。

また、「あおもりの肴」消費拡大レベルアップ事業では、漁業者が自分で獲った水産物を県内量販店で自ら立ち売りする「あおもりの肴フェア」を開催するなど、県産水産物の消費拡大に取り組んでいます。

毎月1回以上開催しており、随時参加漁業者を募集しています。漁協の研究会や青年部、女性部などで立ち売りに興味がありましたら水産振興課までご連絡ください。



あおもり漁業体験教室：階上町
(平成30年10月5日～7日)



「あおもりの肴フェア」で自分で
とった魚を販売する漁業者

あおもりの肴

検索

あおもりの肴
Facebook



あおもりの肴
キッチン



浜風編集委員

須藤 義弘（青森市漁協）
関野 稔（八戸鮫浦漁協）
伊勢田啓二（白糠漁協）
坂崎 祐也（風合瀬漁協）



青森県漁業士会会報「浜風」31.4 vol.26